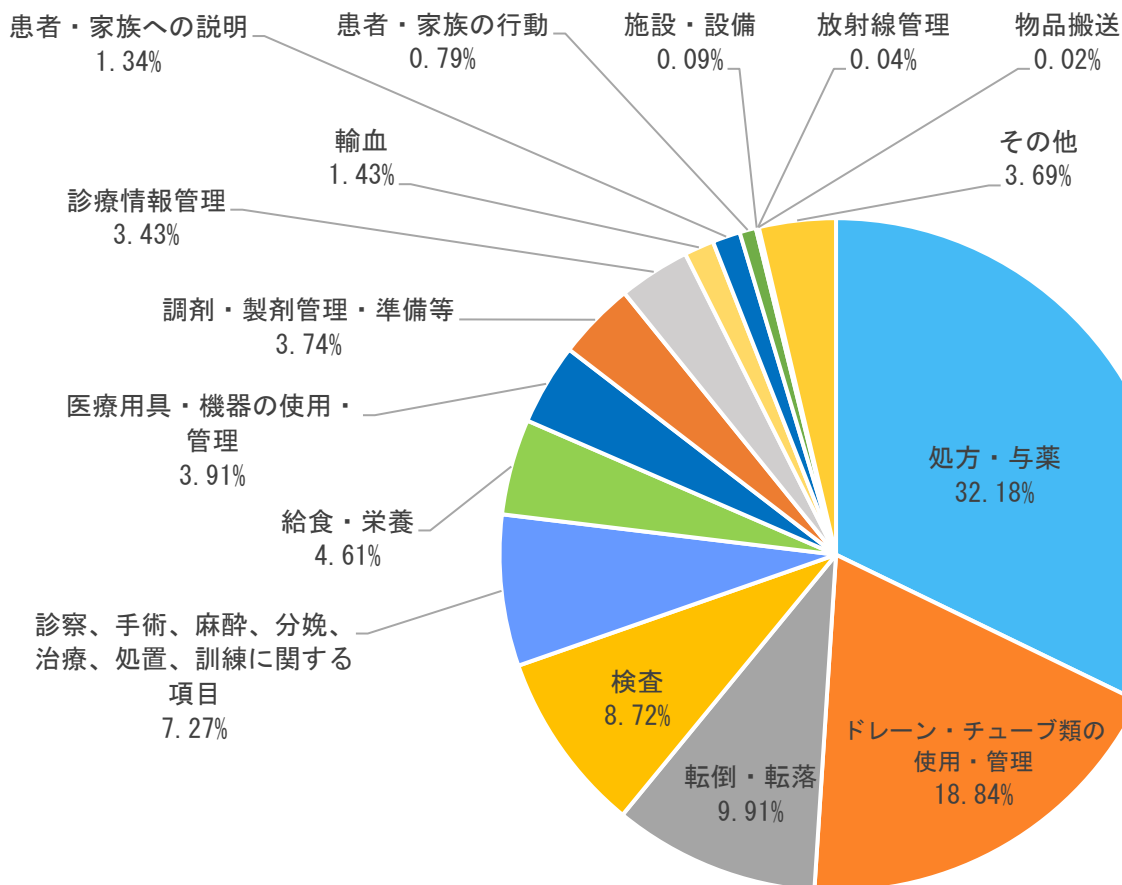


○医療事故の影響レベル

当院のインシデント・アクシデントの定義は「国立大学附属病院医療安全管理協議会」が定めた「影響度分類」に準ずる。

	傷害の継続性	傷害の程度	解説・具体例 他
インシデント	レベル0	—	エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者さんには実施されなかった ・未然に防げた事例 ※本来行うべき検査や投薬を行わなかった事例はレベル0ではない
	レベル1	なし	患者さんへの実害はなかった（何らかの影響を与えた可能性は否定できない） ・エラーや不具合があり、患者に実施された
	レベル2	一過性	軽度 処置や治療は行わなかった（患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた） ・モニタ・センサー類の装着 ・観察回数を増やした ・侵襲を伴わない検査（ECG、エコーなど）の実施
	レベル3a	一過性	中等度 簡単な処置や治療を要した（消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤等薬剤の投与など） ・侵襲を伴う検査（採血、血糖測定、CT、レントゲンなど）の実施 ・発生した事例に対して、何らかの薬剤を投与する必要が生じた ・外来患者の予定外入院（経過観察のみで短期入院） ・骨折の場合：保存的治療で、入院日数の短期延長または入院の必要がない
アクシデント	レベル3b	一過性	高度 濃厚な処置や治療を要した ・予期していた合併症による治療・手術等 ※医療安全管理部で検討の結果、クオリティ審議依頼書の提出になる場合がある ・予期せぬ合併症による治療・手術等 ・予期せぬ心肺停止（蘇生に成功） ・バイタルサイン高度変化 ・人工呼吸器装着 ・予期せぬ手術または手術に匹敵する治療・処置 ・外来患者の予定外入院（入院加療が必要） ・骨折の場合： ①手術又は手術が望ましいが患者の病状から保存的治療を選択 ②保存的治療であっても骨折で入院日数が大幅に延長
	レベル4a	永続的	軽度～中等度 永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない
	レベル4b	永続的	中等度～高度 永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題は伴う
	レベル5	死亡	死亡（原疾患の自然経過によるものを除く）
	その他		

インシデント報告内容（報告件数 5450 件）



アクシデント報告内容（報告件数 136 件）

